

□ トピック □ 春に向けて

春になると冬は眠っていた虫たちが一気に活動をはじめます。これは、気温の上昇、日長の変化により、この時期に休眠を終える種類が多いこと、および虫の体温が上がって各個体の活動性が上がることが要因に挙げられます。今のうちから、春や夏に向けて防虫対策を行いましょ。

飛翔性昆虫の発生は15℃を大体の目安とし、15℃を超えると活発に動き出します。例えば、2016年3月の岡山県岡山市の平均気温は9.8℃であったのに対し、4月の平均気温は15.7℃でした。他の府県でも同様のことが分かります(表1.参照)。また、いくつかの工場での昨年2月～3月と4月～5月の虫のモニタリング結果を比較してみると、飛来侵入虫だけで2.8倍～6.7倍に捕獲数が増えていました。

工場に設置されている古い捕虫器をより捕虫率の高い新しいものに交換したり、捕虫数の多い場所や製造エリアに捕虫器を増設するのも、これからの季節に向けて防虫対策を行う良い方法のひとつです。

	大阪府 大阪市	兵庫県 神戸市	岡山県 岡山市	広島県 広島市	香川県 高松市	愛媛県 松山市
3月	10.8	10.8	9.8	10.4	10.3	10.8
4月	16.6	16.5	15.7	16.2	16.1	16.1

表1.2016年月別平均気温
(国土交通省 気象庁HP参照)

□ お知らせ □ 捕虫器「ウィザスゲッター」

モニタリング調査や捕獲駆除に用いるライトトラップで、弊社がおススメする機種は「ウィザスゲッター」です。

メリット

- ・虫がよく捕れる(右記)
- ・特に大型ハエの捕獲率が高い。
- ・捕虫紙がホルダーに隠れて、虫も見えないので、美観を損なわない。
- ・捕虫紙(捕獲された虫)から虫が落ちないので、クリーンに使用することが出来る。

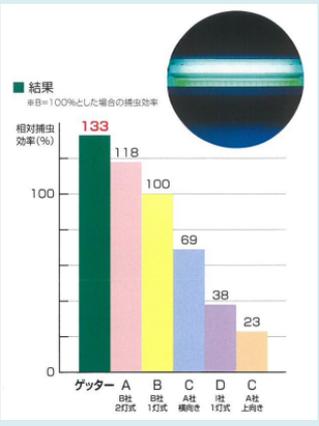
場所や状況に応じてアドバイスをさせていただきますので、捕虫器の増設、交換をご検討の際は一度ご相談ください。



捕虫器の性能比較試験

7.5×4×2.5mの室内において、一定時間窓を開放し、飛来侵入虫を侵入させ、部屋の両端にB捕虫器(1台、比較の基準)とその他の捕虫器(1台)を高さ1.5mの位置に設置し、捕虫数を比較した。以下の手順で試験を行った。

- ①翌朝、捕虫紙を回収し、付着した虫を計数する。
- ②捕虫器を変えて同様の試験を繰り返し各6回行う。(点灯12時)



結果: 他社製品に比べ、捕虫効果が最大で5.8倍となった。

□ 豆知識 □ 虫偏の漢字

『虫』という漢字は元々『蟲』という漢字を省略したもので、『蟲』はヒトを含めた生物が集まっている様子を書いた文字であり、『虫』という字が使われていく過程で、小動物(爬虫類や昆虫類)という意味に変わっていききました。

虫偏が使われる漢字は、ほとんどが哺乳類や鳥類以外の名前に用いられることが多いですが、『虹』は空にかかる大きなへびという意味で作られた漢字で、昔の人たちは今の私たちが思う『虹』とは少し違う捉え方をしていたようです。また、他にも虫を使った漢字の中に『蠢く』(うごめく)という文字があります。春虫と書く、いかにも春に虫が動き出す(蠢きだす)といった様子を表した漢字ですね。

なんと読むでしょう



答えは右下です。